

各地の動き

教区学生層育成者講習会

・滋賀 2月2日 教務支庁

・大分 2月3日 教務支庁

勝村宏樹副委員長出向 60名

・京都 2月11日 教務支庁

中山祥吉副委員長出向 19名

・鳥取 2月28日 教務支庁

清水慶政委員長出向 40名

直属学生層育成者講習会

・川之江 2月10日 大教会

越智久輝委員出向 130名

・網走 2月12日 大教会

岩井大輔委員出向 60名

・松阪 2月20日 大教会

中山祥吉副委員長出向 90名

・笠岡 2月21日 大教会

清水慶政委員長出向 129名

・双名島 2月22日 大教会

東井申雄委員出向 60名

・越乃國 2月23日 大教会

松森芳夫委員出向 100名

・生野 2月23日 大教会

幸田真生委員出向 130名

・中和 2月24日 大教会

秋岡教美委員出向 100名

・東神田 2月24日 大教会

東井申雄委員出向 69名

人事

《立教186年2月25日付》

【直属学生担当委員長辞令交付】

・長嶋喜一（嶽東・伊豆中央）

・橋本善弘（蒲生・磯部）

・岸本成人（豊岡・鳥取）

・實延利郎（南阿・備護）

・安村 洋（中背・何鹿）

業務記録

《立教186年2月16日～3月15日》

2月16日 事務局連絡会

25日 委員会 例会

26日 学修部部会

3月2日 学生生徒修養会 大学の部直前研修

（3日）

4日 学生生徒修養会 大学の部（8日）

5日 広報室会議

9日 学生生徒修養会 高校卒業生コース

直前研修

10日 学生生徒修養会 高校卒業生コース

（12日）

13日 委員会

学修部部会

人材育成部部会

学生連絡会

14日 学生生徒修養会 高校の部研究室

春の学生おぢばがえり

プロジェクトチーム会議

学生担当者報4

発行 / 天理教学生担当委員会

発行責任者 / 清水慶政

編集責任者 / 中山祥吉

Vol. 434

立教 186 年
2023 年

3 月 25 日発行

TEL 直通:0743-63-2489 FAX 0743-62-5780 E-mail tsa@tenrikyo.or.jp

TSA Website https://tsa.tenrikyo.or.jp Happist https://happist.net



今春、WBC
（ワールド・ベース
ボール・クラシッ
ク）が開幕、日本代表のみならず、
世界中の野球選手が躍動し、私た
ちに感動を与えてくれました。私
の長男も一昨年から野球を始め、
WBCに首ったけ。野球に疎い
妻ですら、息子に野球のルールを
教えてもらいながら楽しんでいま
した。

私が印象に残っているのは、W
BC開幕前に行われた日本代表
の調整試合。対戦相手である日本
プロ野球チームのベンチは大谷翔
平選手に首ったけ。ベンチは彼の
プレーに野球少年のまなざしを向
けていました。その表情はキラッ
キラに輝いていて、人は人に魅了
されるものだ、改めて感じまし
た。

所変わって、おぢばでは、学生
生徒修養会大学の部と高校卒業
生

「首ったけ!」

生コースが開催され、多くの学生
生徒がおぢばがえりをしました。
高校卒業生コースに至っては4年
ぶりの開催となり、育成現場のス
タッフは力が入りました。

若者がおぢばで信仰を培う姿
は、感動を誘います。そして、真
剣に学生生徒に向き合う学修ス
タッフの姿や心意気は、必ずや彼
らのキラッキラ笑顔と憧れのま
なざしを呼び起こし、信仰の喜び
を与えていることでしょう。加え
て「春の学生おぢばがえり」を控
え、3月28日の式典にたくさん
の学生生徒が中庭を埋め尽くす光景
を願って止みません。

さて、4月25日には「令和5年
度高校生の集いまなびば」の教区
学生担当者に向けた研修会が行わ
れます。学生担当委員会では、高
校生の感性にフィットするプログ
ラムを企画、作成し、信仰の喜び
を味わえる一つの手段として、ま

人材育成部 委員

西田 昭芳

まなびばの開催を推進しています。
まなびばの特徴は、なんといっ
てもプログラムのユニークさに
あると思います。教理テーマを
掲げて、遊び心あふれるエクサ
サイズによる体験学習を通して、
お道の心を養う内容となってい
ます。さらには、道を信仰する
運営側の大人たちが、大真面目
に楽しみながら信仰の素晴らし
さを伝える本気を高校生に感じ
取ってもらえたら、まなびばの
素晴らしさに首ったけ、そんな
機会になることでしょう。
忙しい中とは存じますが教区
学生担当者の方々には、ぜひと
も、当研修会にこそぞっての参
加いただくことを熱望しまして、
まなびばの良さを味わっていた
だければ幸いです。

令和5年 学生担当委員会 活動方針

「教祖を慕い、ひながたを辿る喜びを共に味わおう」

学生生徒修養会 大学の部 開催報告

去る3月4～8日の期間で、「学生生徒修養会 大学の部」を開催。459名の大学生が受講した（スタッフ210名）。昨年と同様、参加回数で分けず、全学年を混合させた班体制をとり、「いさみ塾」（高安詰所）、「よふき塾」（38母屋）、「つなぎ塾」（7・8・9母屋）、「みのり塾」（12母屋）の四塾体制で実施した。お引き寄せいただいた学生たちは、共同生活を通して絆を深め合いながら、『おつとめを身近に』のテーマのもと、共に語り合い、励まし合いつつ、親神様の懷に抱かれながら、教祖のみ教えに触れる充実した5日間を過ごした。

初日。緊張と不安と期待が交差する中、開講式を迎えた学生たちは、その後、各塾での心をほぐす楽しいプログラムを通して同じ班の仲間やカウンセラーとの交流を深めながら、次第に打ち解け合った。

2日目。学修最初の『講話』（塾別）では「信仰の喜び」と題して、親神様のご守護やお働きを学んだ。また2日目・3日目の午後には『修練』があり、てをどり、

鳴物の習得に励んだ。

3日目。四つのテーマの講話から一つを選ぶ『選択講話』では、それぞれの立場で道のご用に活躍される講師陣のおたずけ話に聴き入った。さらに『委員長講話』を聴き、その後のふりかえりにおいて、4日目の『おつとめまなび』に向けての心を作った。

4日目。いよいよ今回のメインプログラムである『おつとめまなび』では、受講生とスタッフが心をそろえ、一手一つにつとめさせていただいた。続く『塾長講話』では、親神様のご守護やおつとめの大切さ、をやへの感謝を学んだ。

最終日の『閉講式』では、表統領・中田善亮先生よりご挨拶をいただき、代表者に修了証書が授与され幕を閉じた。このたびの学修で受講生のみならず、スタッフ一同も、おつとめの大切さを再確認し、親神様の親心を感じる5日間を過ごした。誠の心で人材の育成につとめる中で、「共に育つ」道の育成の精神を見落とすことなく、今後も信仰を伝える学修の発展に努めていきたい。

学生担当者報

学生生徒修養会 高校卒業生コース

カウンセラー感想文

○女子カウンセラー感想文

私は今回の「学修高校卒業生コース」で、初めてカウンセラーをつとめさせていただきました。私自身、学修に参加したこともないし、まさか自分が学修のスタッフを務めるなんて思ってもみませんでした。私にこの御用がつとまるのか不安で、戸惑いながら参加した事前研修会の中で、「スタッフも学生さんと共に学ぶ姿勢で務める」というお話を聞かせていただき、そのような気持ちで務めさせていただくと思いました。

いよいよ学修が始まり、班でのグループタイムの時間になりました。それぞれがこれまで歩んできた人生のことや、これからの進路や夢について真剣に話をしてくれました。学生さんの話を聞けば聞くほど、親神様が引き寄せてくださり、それぞれにちょうど良いようにお与えくださっているメンバーだと心から感じさせていただきました。

そんな中で、私は少し気にかかること

がありました。それは、他の班に比べて私の受け持った班は、静かで落ち着いていたことです。違う人がこの班のカウンセラーだったら、学生さんはもっと楽しめるのではないか、自分に責任があるのではないかと考えていました。そうして、プログラムも終盤になってきたグループタイムの時、ある学生さんが、「この班は他の班より静かで大人しいけど、それは心の優しい人が集まっているからだと思う」と話してくれました。また、他の学生さんも、「この班だったからこそ今まで話したことのないことも話すことができた」「この縁を大切にしていきたい」と、今回の学修で親神様のお導きを感じ、親の思いを素直に求めている姿に心を動かされました。表面上のことに囚われ、親の思いや相手の心に目を向けることができなくなっていた私に、学生さんの姿や言葉を通して、親神様が教えてくださったのだと感じました。

学生さんをはじめ、スタッフの皆さんのおかげで、たくさんのことを学ばせていただきました。本当にありがとうございました。

お知らせ

四月例会

期日…立教186年4月25日
時間…15時30分受付 16時開始
会場…教庁4階講堂

学生層育成者講習会

日程・会場案内

教区	
・栃木	4月30日13時～ 教務支庁
直属	
・山名	4月23日11時30分～ 大教会
・中野	4月23日12時～ 大教会
・岡山	4月23日11時～ 大教会

報告

二月例会

去る2月25日、教庁4階講堂において「2月例会」を開催。出席は35教区、93直属。

学生担当者報

学生生徒修養会 高校卒業生コース 受講生アンケート

班のメンバーの今までの天理教に対しての思いを知り、今までの人生を話し合えて良かった。また自分自身をふり返るいい機会になりました。

同世代の天理教を信仰している人に出会って、普段は語らないようなテーマで語り合えて、同世代だからこそ響くことがあってとてもいい時間を過ごせました。これからの天理教に不安があったけど仲間と出会えた気がして心強くなりました。

学生担当者報

一人一人と喋って見た目じゃ分からない一面を知れてすごく楽し

かったです。

班の中で色々な意見を学べて、天理教が完全に好きになるきっかけになった。

自分のことを話したり、同年代の班員の話聞いたたりすることはなかなか機会がないので、いい経験ができたと思いました。

班の子の天理教に対する考え方を知ることができて新しい考え方を取り入れ、たくさん感動させていただいた。

青空

私の信仰の元一日は大学生の時に受講した学修の選択講話を聞いた時でした。また、お道から外れそうな私を引き戻してくれたのもスタッフとして呼んでいた学修大学の部でした。なので私にとって学修はとても思い入れのある行事になっています。

先日あった学修大学の部でもスタッフとしてご用をさせていただきました。テーマは「おつとめを身近に」でした。自分はおつとめは大切なものであり身近というイメージが無かったので、2月の間は勉強と、何かあればおつとめをさせてもらいました。そしてやってきた学修の直前研修。おつとめは身近どころかどこかへ行ってしまうていました。そして気が付けばおつとめは見えぬまま学修が始まりました。しかし学修が始まり、おつとめについて学生と学び練り合う内に身近に感じられるようになってきました。そして迎えたおつとめまなび。学生と共に勤めたまなびはとも光り輝き陽気にあふれた世界となりました。その時からおつとめが身近なものとなり、ふり返りではみんなが身近に感じるようになりますようにしました。

私はまた学修と学生を通して大きなものを教えていただきました。このご恩を返すためにもご用をいただける限り、精一杯勤めさせていただきたいと思っています。ありがとうございました。

人材育成部本部スタッフ 小見山 健

学生担当者報

学生生徒修養会 大学の部 受講生アンケート

○2年生男子

「おつとめを身近に」というテーマで行われたこの学修で、おつとめがなぜ大切なのかということやおつとめに際してどのような心構えでいるべきかということを学ぶことができた。教会に生まれ、物心ついた頃からおつとめに触れていると、何のためにおつとめをするのか分からなくなることもあったが、学修でさまざまな先生の講話を聞かせていただき、これからのおつとめに際しての気持ちが強まった。

○4年生男子

おつとめを大切にしていきたいです。今までおつとめはしていましたが、無

の心になっていたり、早く終わらないかなという気持ちになりながら、取り組んでいました。現在、世界では色々な身上や事情で苦しんでいる人がいる中、こんな考えでおつとめしている自分が情けないと思い、これからは苦しんでいる人たちのことを想い、素直な心で精一杯おつとめに取り組んでいきます。

○1年生女子

おつとめをすることが大事なことであった。神様からの贈り物だし、感謝を忘れず、人のたすかりを思っ

て、心を込めておつとめしたい。

おつとめの意味とか今まで真剣に考えたことがなかったことを、改めて考えることができたし、色々な視点や価値観を知ることができて、良い経験になった。

○3年生女子

おつとめの大切さ、おつとめの心構えを学んだ。失っても、苦しんでもきつと良いことが待っている。いつもお見守りくださっている。いろんな人に多くの人に学修に参加してほしいと思えるほどすてきな行事だと分かりました。

○1年生女子

高校の時以上に学べたことが多く、おつとめや天理教について詳しく知れてよかったです。そして、班の人たちともつながりを深められて本当に楽しかったです。

親神様、教祖に感謝することの大切さ、神様の偉大さに改めて気付かせてもらった。何事も当たり前ではなく神様のご守護のおかげであるから神様に感謝をして、それを姿にうつし、お礼していけたらいいなと思った。

学生生徒修養会 大学の部
カウンセラー感想文

○男子カウンセラー感想文

私は今回初めて学生生徒修養会大学の部にカウンセラーとして参加させていただきまし
た。ペアのカウンセラーや、頼りになる塾ス
タッフたちのお陰で、担当した学生さんたち
に喜びと感動を持ち帰っていただくことがで
き、また学生たちを通して私自身も多くのこ
とを感じました。

特に印象に残ったのは4日目の夜に行った
GT⑧の時間です。その時間は班ごとにカウ
ンセラーが内容を考え、学生たちの信仰を深
める時間でした。前日の夜、相手と話し合い、
この学修をただ楽しかったという記憶だけで
は無く、悩みを共有できる仲間作りをして欲
しいと思いました。そのため、私たちはまず
1分間スピーチで話しやすい雰囲気作りをし、
学生だけで信仰の悩みを話し合う時間としま

した。1人の子が泣きながら自身の不安
や悩みを打ち明けると、その子に続き周
りの子も思っていることを話してくれ、
とても良い時間になりました。宿舎に帰
る時、1人の子が私の隣に来て涙ぐみな
がら「さっきの時間を作ってくれてあり
がとう」と感謝の気持ちを伝えてくれ、
改めて同年代が集まりお道の話をできる
学修という場はすごいなと感じました。
最初は初めてのカウンセラーで緊張し
ていましたが、学生たちが楽しむ姿、ま
た真剣にプログラムに向き合う姿を見て、
このご用は本当に尊く大切なものだと思
って思いました。

私は今期から本部スタッフとしての役
割もいただいたので教祖百四十年祭に向
けて親神様、教祖にお喜びいただけるよ
うに精一杯努めさせていただきます。

明日につながる
学生WEBSITE
Happist

<https://happist.net>



QRコード読み取り

- お道の教えや心にグッとくるお話をご紹介
- おちばの行事情報や各地の学生会情報も充実
- 「Happistスマイル」では学生の笑顔をお届け

学生に手渡しできるリーフレット
HAPPIST [NOT] NET

毎月25日発行。例会資料としてお配りしています。
部数のご変更は学生担当委員会事務局まで。

学生生徒修養会 高校卒業生コース 開催報告

3月10日から12日にかけて、4年ぶり5回目となる
「学生生徒修養会 高校卒業生コース」を開催。コロナ
禍の影響が残る中にも関わらず、受講生302名（スタッ
フ212名）が参加した。本コースは、進学や就職などそ
れぞれの道へと進む大切な時期に、親神様のみ教えを
学ぶ中で、親神様、教祖はもとより、親やこれまで自
分を支えてくださった方々への感謝の気持ちに気付い
てもらおうとともに、同世代の道の仲間とのつながりを
深めることを目的に企画された。

初日は、『開講式』にて吉川万寿彦本部員より挨拶を
頂き、また学生担当委員会・清水委員長が挨拶に立つ
た。その後、受講生はグループタイムを通して、お互
いのことを知り合う時間を過ごした。2日目には、自
分自身の過去を振り返り、多くの人に支えられてきた
ことに気付くことをねらいとしたグループタイムを行っ
た上で、仙臺大教会長・加藤元一郎先生より「親神様
の御守護」と題した講話を頂戴した。その後『ふりか
えり』の時間では、それぞれが感じる親神様のご守護
について語り合った。午後からの『組別行事』では、

お楽しみ要素を盛り込んだプログラムを行い、和やかな雰
囲気の中で、班員以外の仲間とも親睦を深めた。『班タイ
ム』では、神殿や神苑のひのきしんを行う班、記念建物を
見学する班、市中の清掃ひのきしんを行う班、学生たちに
とって切実なテーマであるお互いの“恋バナ”を行う班な
ど、班ごとに主体的に計画した活動に取り組み、有意義な
時間を過ごした。夜には、ランタンの淡い光の中で『班内
感話』を行い、自分の信仰や夢について真剣に語り合った。
最終日には、主任より「明日の君たちへ」と題した講
話を聴いた後、ふり返りを行うとともに、この3日間で学
んだことを再確認した。そして、み教えを基にこれから先
の人生を生きる上での決意を記し、封筒に入れて持ち帰っ
た。それぞれが新生活をスタートする時に開封し、学修で
学んだこと気付いたことを今一度思い起こして、今後の日々
に生かしてもらうことをねらいとするものである。

最終日。『閉講式』において、表統領・中田善亮先生よ
り代表者に修了証書が授与され、ご挨拶を頂いた。その後、
2泊3日の、短いながらも内容の濃い高校卒業生コースは
幕を閉じた。